

第13回「全国小さくても輝く自治体フォーラム」に参加して

6月27～28日に三重県朝日町で上記フォーラムが開催され参加した。27日は加茂利男立命館大学教授の「これからの地方制度を考える」という記念講演、分科会・町村長交流会などが行われた。加茂教授は「平成の大合併」を振り返る中で、第29次地方制度調査会答申や道州制、制度改革の選択肢として北中欧・南欧の動きなどに言及した。

町村長交流会に招かれ、緊張しながら広域連携のあり方について質問・コメントした。長野県泰阜村の松島村長や岐阜県白川村の谷口村長などと交流でき有意義であった。28日のシンポジウム「地方制度再編と小規模自治体の課題」は、3人の町村長の発言がじつに興味深かった。写真右から長野県阿智村の岡庭村長、宮崎県綾町の前田町長、そして地元朝日町の田代町長である。まさに「小さくても輝く自治体フォーラム」にふさわしいシンポジウムであった。



6月16日の地方制度調査会答申により、市町村合併は来年3月末をもって「一区切り」とされた。道州制導入とあわせて合併推進を「再起動」させる可能性もあり、今後の動向を注視せねばならない。

フォーラムに間に合わせようと、写真のような『合併を超越して自治体自立へ 東海地域の市町村合併・自立と道州制構想』という冊子を準備してきた。冒頭に、地域力を活かして子育て環境の整備・自立のまちづくりを進めてきた朝日町の田代町長へのインタビューが掲載してある。フォーラムでもタイムリーな出版と好評であり、一読していただけると幸いである。



(2009年6月30日 記)